移住女性のストレスと精神的健康

－既婚移住女性と北朝鮮離脱住民女性の比較研究－

○　釜山大学　朴　ジヘ

釜山大学　李　ギヨン

１．研 究 目 的

外国人移住者と北朝鮮離脱住民に関した先行研究は多かったが、これらの集団を各個別的に扱ったり、適応の観点から文化的ストレスなどの特定側面だけを扱った研究がほとんどである。しかし、これら２集団を同時に考慮し、各相違な集団の特性によってストレスの差を比較した研究は成していないし、韓国社会の適応に先立ち要求される精神保健と心理的健康を扱った研究もやはり不才な実情である。特に移住民階層で特に脆弱な移住女性集団の既婚移住女性と北朝鮮離脱住民女性はストレスと精神的健康に対しての問題がもっと目立つだろうし、これらを対象にストレスの総体的側面を扱い、その差と精神的健康に及ぶ影響を把握する経験的研究が成すべきだと思慮される。

従って、本研究では既婚移住女性と北朝鮮離脱住民女性のストレスが精神的健康、すなわち否定的側面からでの憂鬱の原因に当たる無妄感と不安、そして肯定的な側面からの人生の満足に及ぶ影響を実証的に確認しようとする。ちなみに、既婚移住女性と北朝鮮離脱住民女性のストレスが精神的健康に及ぼす影響の差を比較することによって、究極的に既婚移住女性と北朝鮮離脱住民女性のストレスと精神的健康の特性を区切って、これらのための社会福祉政策備えの基礎資料を提供するのに研究の目的がある

２．研究の視点および方法

本研究は先行研究を参考にし、究極的に既婚移住女性と北朝鮮離脱住民女性のストレスに影響を及ぼす年齢、学歴、結婚、移住期間などの統制変数を反映し研究を進めた。

本研究の調査のため、先ず先行研究を土台に作成された１次調査票で移住女性を対象に事前調査を実施した。事前調査を土台に項目の表現修正作業と妥当性および信頼度検証を経て、本調査を進行した。本研究は釜山と慶南に居住している２０歳以上の成人、既婚移住女性と北朝鮮離脱住民女性を対象に研究者とアシスタントが直接訪問し、配布する方法を取り入れ調査を実施した。ストレス認識に対しては移住民女性２集団が受ける主要ストレスを独立変数に分けて把握しこのようなストレス認識が精神的健康要因(無妄感､不安、人生の満足）に及ぶ影響を従属変数において調査した。研究の目的を達成するために文献研究検討と実証的調査方法を並行した。尺度ではホンミギの国内移住女性に向いて修正補完された．Acculturative Stress Scale for International Studen と Holms & Richard が開発した生活事件ストレス尺度を利用し、Beck の無妄感と不安尺度、ヤンオクキョンンの人生の満足尺度を使用した。

３．倫理的配慮

調査過程で調査対象たちの人権を侵害しないという約束を守るため、調査票を配布する前に匿名で実施し、秘密が保障され、本研究の目的以外には使用しないことを説明した。既婚移住女性を対象にした調査票ではより正確な理解を求めるため、彼らの言葉で翻訳された調査票で調査を実施した。

４．研 究 結 果

既婚移住女性のストレスは無妄感と不安順に有意味な影響を及び特に生活環境ストレスが精神的健康に多く作用するのが分かる。そして、北朝鮮離脱住民女性のストレス不安、無妄感、人生の満足順に有意味な影響を及び既婚移住女性と同じく生活環境ストレスが精神健康の主要な決定要因であることが本研究から分かる。このような研究結果で既婚移住女性と北朝鮮離脱住民女性は、人間関係で経験する多様な葛藤及び文化的ショックよりも劣悪な生活環境経済的困難、貧困感などの生活的ストレスが２移住女性集団の精神的健康のもっと大きな阻害要因に作用するのが分かる。

またこのようなストレスの精神的健康に対した影響は既婚移住女性と北朝鮮離脱住民女性にあって比較的違う様相に見えるのは韓国移住の目的と状況にあって２集団が大きな差があるので韓国生活定着過程でのストレスに対した対処とそれに従う精神健康の影響にあっても少し違う様相が現れる。

５．考 察

本研究の結果を土台に２移住女性の精神的健康を管理するためには何より衣食住に関した生活改善と貧困解消、経済的自活自立のための政策改善と社会的支援がもっとも切実に要求される。以上の研究結果を土台に２移住女性集団ストレスを各次元別に区切って精神的健康要因に及ぶ影響を比較分析するのに意義があり本研究の結果は移住女性集団に適切な社会福祉体系を備えるための基礎資料として捉えられる。、一般的に備えた移住民適応基準ではない二重的疎外階層としての女性の特性を考慮して各移住集団に合わせて提示されたプログラムが適用されるなら現在施行中の社会的支援サービスの効果が**増加**し、これは究極的には我が社会が志向する社会統合に役に立つだろう。